

《企画研修会①報告》

講演会「課題を抱える今どきの子ども達」

～さわやか相談員の目を通して～

令和六年度第一回企画研修会を八月十七日（土）九時三十分からコミュニティセンターいわたきにおいて開催した。猛暑の影響を緩和させるため、午前中の開催とした。

参加者は合計十九名で、岩槻班会員だけでなく、他班から二名と高校の教員も一名の参加があった。

本会は今年度本格的に学校・地域の活動を支援するボランティア活動を展開しており、学校や地域に出て子ども達と直接接する機会をもつようになった。そして今どきの子ども達の抱える課題に対峙していく必要がある。学習が遅れがちな子、引きこもりがちな子、人間関係づくりの苦手な子、こうした児童・生徒が増加傾向にあり、学校や地域の現場で子ども達と接する機会が生まれた今、子ども達が抱える課題を知るため、岩槻中学校でさわやか相談員として勤務されている、毛利直美氏を講師として招いて講演会を開催した。

毛利先生は、公認心理士、メンタルヘルス

ケア、カウンセリング認定証等の資格を持ち、専門的な立場からお話を伺うことができた。

① 現在の岩槻中学校の指導組織（ECA、Solarーむ等）

② さいたま市で活用できる支援

③ 不登校傾向の子どもの達の現状（岩槻中）

④ さわやか相談員が考えるクラスに行けない子ども達

⑤ 今一番必要だと思う支援

について、資料をもとにわかりやすく講演してくださった。

さいたま市では、課題を抱える子ども達を支える指導組織が充実しており、さらに令和六年度より「Solarーむ」が開室された。教室に入れない子ども達の救いの場となっている。また、さいたま市で活用できる支援として、教育支援センター「たいよう」（岩槻教育相談室）と不登校児童生徒支援センター「Growth」があるということや不登校傾向の子ども達の現状について、気候のアップダウンや感覚過敏、学業不振、小学校五・六年生からは思春期なども原因の一つとしてあげ、普段の食生活や睡眠、運動など様々な要因を

説明してくださった。

特に食に関しては、一日一食という児童が十二パーセントもいるなど、きちんと食べられる環境を確保する必要性もあるとのことだった。

毛利先生の講演の中で、「こうだからこうだとバイアスをかけてしまうことはよくない」という言葉が心に響いた。また、今一番必要だと思う支援は「自己肯定感を高める」と「唯一無二」という二つのキーワードが、とても心に残った。今後、本会が学校・地域連携を進めていく上で今どきの子ども達が抱える課題を知ることができ有意義な研修会となった。

（担当幹事 林 春枝）

